

会		議		記		録	
会議の名称		総務文教常任委員会			会議場所		全員協議会室
					担当職員		小川
日 時		令和8年3月12日（木曜日）			開 議		午前10時00分
					閉 議		午前10時20分
出席委員		◎山本 ○小林 竹内 浅田 三上 松山 福井 （欠席：原野）					
執行機関 出席者							
事務局		小川事務局次長					
傍聴		可		市民 0名		報道関係者 0名	
				議員名 0名			

会 議 の 概 要

10:00～

1 開議

2 委員長報告の確認

（山本委員長 委員長報告朗読）

<山本委員長>

この内容でよいか。

<松山委員>

「収支が黒字になった場合は」という表現や、「成果の見通しをどのように評価していくのか」という表現について検討が必要である。見通しを評価するのは難しく、評価するのは成果そのものではないか。見通しは明らかにするものであり、評価できるものではない。「成果の見通しをどのように評価していくのか」という部分を修正し、収支が黒字になった場合や、経営リスク管理をどう整えるかといった表現にするのはどうか。

<三上委員>

以前の議論を整理すると、黒字になった時の話や、成果が上がる見通しを持っているかといった点を確認したはずである。

<福井委員>

収支が黒字になった場合という表現より、成果の測り方や赤字が続いた時の対応、透明性などが論点であった。「収支が黒字になった場合」という箇所は修正が必要である。

<三上委員>

例えば「何を成果とし、どのように評価するのか」という表現はどうか。

<山本委員長>

それが良い。

<事務局次長>

「収支が黒字になった場合」という文言を削除し、「何を成果とし、どのように評価するのか」とした上で、修正した文章を読み上げる。審査の過程において、地域商社〇

NE 亀岡設立出資金増資について、事業計画と収支を詳細に策定しているか、何を成果とし、どのように評価するのか、経営危機に対するリスク管理を整えているか、市民にどの程度情報発信をして透明性を確保するのかといった意見が出された。委員長にこの内容でよいかお諮りする。

<山本委員長>

この内容でよいか。

— 全員了 —

<山本委員長>

それでは、この内容で報告を行う。以上で総務文教常任委員会を閉会する。

散会 ～ 10 : 20